

# そだちのねっこ

～乳幼児期の遊びより～



## 【「(この人だあれ?)+(せんせい、いるよね!)」～『やってみたい!』が学びの芽～】

8月27日(水)、0歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。自分の体を十分に動かして遊ぶことを楽しめるように、「ランチホール」にいました。机をつなげたトンネルや坂道や、持ち上げることができる大きなサイコロがあり、子どもが自分で選んで遊べる環境でした。しかし、顔見知りでない『私=知らない人』が入ったことで、「誰や?」と一定の距離を保ってじーっと見て固まってしまう子どももいました。一歩近づこうとすると、「泣く



で!」と言わんばかりのしかめっ面をし、「これ以上来ないで!」と声なき声を感じました。『私=知らない人』が視線を外すと、担任の傍へ寄って遊び始めました。坂道をよじ登ぼって滑り、一つの遊び(行動)をしたら担任を見て、温かいまなざしにほっとしてまた遊ぼうとする姿が見られました。『私=知らない人』がいくら温かなまなざしをしても安心感はなく、これまでのかかわりを通して、担任の先生が大好きになり安心の場になっていることを目の当たりに感じました。

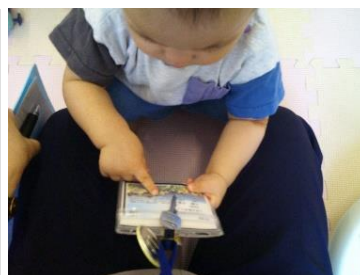
しばらくして、自分たちの保育室へ戻りました。子どもたちのほっとした表情とともに、好きな玩具を自分で取り出したり、担任から離れて保育室内を探索したりして、ランチホールでの姿とは違った姿を見ることができました。いつもの空間が安心の場所になっていると思いました。そこで、子どもたちと『私=知らない人』の距離を縮めてみたくくなりました。

安心の空間で安心の人(担任)が見える場所が居心地よいスペースでくつろいでいたA児に…。  
私:「どうぞ!」と、緑の玩具を置く  
A:「…」  
私:「おんなじ形やね!」と、A児の持っている玩具を指で触る  
A:「…」ちらっと見る  
外部からの刺激を与えてみましたが、『私=知らない人』を拒否することなく少し存在を気にしながらも、しばらくこのスタイルで過ごしていました。



ねじで動く玩具を走らせて遊んでいたB児に…。  
私:「ちょうだい!」  
B:(はい!)玩具を渡す  
私:「いくよ～」走らせる  
B:止まったら、つかむ  
私:「ちょうだい!」  
一定の距離があるけど、「ちょうだい」の言葉に渡そうとする姿がありました。繰り返し遊ぶうちに、距離は保ったままでしたが笑顔が見られ、想定通りの遊びに嬉しそうな表情をしていました。

「いないいないばあ～」をしたり、一緒に遊んだりしたC児。  
私の名札に興味をもち、指差ししたり、振ったりひっぱたりして、「これなあに？」を知ろうとする姿がありました。  
C:名札に付いている鍵を口に入れようとして、私を見る  
私:「あかん、あかん」  
C:「へへへ～」(笑う)  
再び、口に入れる寸前で私を見る  
私:「あかん、あかんて～」  
C:「へへへっ」(笑う)  
何回かこのやり取りがありました。私の「あかん」という言葉が否定ではなく、言い方にはまったようで、「もう1回!」を求めてきたのだと思いました。



0歳児では、個人差が大きくなりますが、乳児期で大切にしたいアタッチメントの経験が基盤となり、子どもは様々な心の力を身につけていきます。「何かあれば、大好きな先生の所へいけばいい」という見通しがもてることで、『私=知らない人』という初めて見る人に対して「冒険心」が芽生えたと感じています。『私=知らない人』に対する距離感は一入ひとり違っていました。アタッチメントを基盤に、勇気をもって一歩踏み出す姿に出会えたことがとても嬉しかったです。この姿こそが、学びの芽(スタート)であると思いました。

アタッチメントがしっかりと経験できている子どもほど、探索活動・探究活動に夢中になって、自分の力を広げていくことができると言います。担任の先生たちの温かいまなざしと「これなあに?」「やってみたい」の気持ちに寄り添った遊び環境を整えたり、見直したりする日々の積み重ねがあり、今回の子どもたちの姿につながっていると思いました。